

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、地の果てにまで、わたしの証人となります。（使徒 1:8）

聖霊を求めて祈ろう

教団代表 岩上 祝仁



「彼らはみな、女たちとイエスの母マリア、およびイエスの兄弟たちとともに、いつも心を一つにして祈っていた。」（使徒の働き一章14節）

新緑の季節5月を迎えました。山肌は鮮やかな新緑に染まって、いのちの芽吹きを実感するようにになりました。神の恵みの働きは聖霊のいのちの働きです。人々を生かし、強め、成長へと繋げてゆきます。教会ではイースター（復活節）を越えて、ペンテコステ（五旬節）に向かつての歩みの中にあります。また5月には聖宣神学院の創立記念日（17日）や、ジョン・ウエスレーのアルダスゲートの記念日（24日）があります。

イマヌエルの群れの働きがここまで継続されてきた大きな要素の一つが聖宣神学院（BTC）です。地域教会から献身者が興され、神学院で学びと訓練を受けて、牧師として教会に派遣される。人が育てられ、教会の働きに遣わされることによって主イエスの福音を伝え、教会が建て上げられてきました。残念ながら、現在、神学院にはイマヌエルの正規コースの神学生がおりません。ここ数年間は神学院卒業の牧師が補充されないこととなります。教団にとっても、地域教会にとっても危機的な状況です。私たちはこの状況を真摯に受け止めた上で、父なる神に聖霊の助けを祈り求めたいと思います。

冒頭の箇所は、主イエスを天に送った弟子たちがエルサレムの二階座敷に上がり、聖霊が注がれるまで、祈り求めた記事です。彼らは主イエスの約束のみこと

ばを握って祈りました。「聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります」（使徒の働き一・8）。

宣教・伝道・そして教会建設は聖霊を受けた人々によって、力強くなされてゆくのです。ペンテコステ前の弟子たちのように、聖霊に満たして下さる父なる神に希望を置いて、私たちも心を合わせて、聖霊を注いでください、聖霊に満たして欲しいと祈りたいと思います。

救いの確信を祈り求めていたジョン・ウエスレーは、1738年5月24日の夕刻にアルダスゲート街でのモラビア派の集会で、聖霊によって心燃える経験をし、ウエスレーの新しい歩みが始まりました。また、多くの聖徒たちが聖霊を祈り求め、聖霊に満たされ強められました。その宣教の働きは現代まで継続されています。宣教伝道の働きはひとえに聖霊によるのです。

聖霊によって私たちキリスト者は救いの喜びに満たされ、恵みに応答して、主の宣教・伝道の働きに召されます。そして献身へと、神学院へと導かれてゆきます。このように聖霊によるいのちの働き、教会の働きが進められてゆきます。

主イエスは言われました。「いのちを与えるのは、御霊です。」（ヨハネ六・63）このみことばを握って、神のいのちを受け、神の働きを進めてゆくために群れを挙げて心を合わせて聖霊を祈り求めてゆきましょう。

目次

- 聖霊を求めて祈ろう……岩上祝仁……1
- 第77次年会全体報告……2
- 聖会説教要旨、宣教会説教要旨、引退教師挨拶……3
- 海外トピックス、国内教会局コラム、読者のひろば……4
- BA教区主事会議、異端/カルトへの警戒、燭台……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～10
- 教育局、信徒局……11
- 公報、消息……12

第77次年会 全体報告

「祈り」をテーマに開催 課題克服へ協労を 組織改革検討チームの提言

2022年3月23～24日

総務局 北田直人

1 代表

▼キリストのからだの連携を目指し、局と局の連携も深めるように意識作りを始めつつある。

▼神学院の新しい体制づくりがなされた。

▼国内教会——常任牧師のいない教会は局と先生方の協力によって教会の働きが継続されている。今後、卒業生のいない4年間、どのような形で地域教会を支えてゆくのかが、祈りと工夫が必要となってきている。

▼将来に備えるため、群れのスピリットを大切にしつつ、時代に即した教団の在り方を模索しながらの検討チームからの提言を受け止めた。

▼霊的な営みを最優先に。

▼コロナ後を視野に入れつつ教会・教団の営みを備えておく必要がある。

▼コロナ禍で深まった断絶や孤立を防ぐため、良い協力体制を作る必要がある。

▼積極的に福音を伝えよう。

▼牧師自身が主の働き人として育って行くことを意識し続けたい。

▼また地域教会から福音を伝える器が備えられ、育てられて行くような群れを目指していきたい。

▼きよめの恵みに生きる聖なる教会を目指したい。

▼組織改革検討チームの提案を受けて、5年、10年を視野に群れを整えられて行く組織づくりを行いたい。

2 国内教会局



牧師の高齢化のため引退の増加が予想される。各教会の状況、地域性、歴史を顧みつつ、その教会にふさわしい導きを教員、教区教会と共に考えたい。地域教会の存続に教区内の支援と祈りは欠かせない。今後も近隣教会との平時からの交流、協力関係の構築、課題や情報の共有を期待する。



3 世界宣教局
宣教師と子女の支援体制を見直す。新しい宣教地の開拓や海外での様々な働きの情報を収集する。若者に宣教のアピールができるように新たな方法を検討する。より多くの牧師・信徒が、より楽しく、具体的に世界宣教の働きに参加できるように方法を探っていく。



4 教育局
卒業後間もない牧師のために研修を継続する。牧師夫人対象の研修も検討していく。

グを実施し、信徒向け聖書の学びを継続する。

青年課では、「BUND」の活動を支援し、各地域のユース活動や集会を支援する。中高生課では、とにキャンなどを予定している。教会学校課では、現在CS活動ができなくなっている教会のための支援、聖書トレーディングカードの準備に取り組み予定である。

5 信徒局

「信徒ができることは信徒が担っていく」との基本理念をもつて活動していく。信徒局の後継者の育成に努める。次の信徒フォーラムに向けて準備を開始する。

6 神学院

教育局・青少年部と協力してBTRCトリート、オープンキャンパスを計画している。できればキャンパスに実際に迎えて開催したいと願っている。

15の提言の説明がなされ、各部署に必要な議論、検討、提案がなされることになった。

●テーマ別フォーラム
「兼牧」「協労」「宣教」についての発題がなされたのち、グループに分かれて分かち合い、祈りの時を持った。

●教職按手式

今年教職按手を受けられる13名の内、7名の教職按手式が行われた。6名の教職按手式は後日、地域別に行われる。

●期別の祈り会・交わり会

ここ数年、年会で直接会う機会がなかったため、オンラインでもあっても顔を合わせ、声を交わし、祈り合う時があったことは幸いだった。

祈りによって備え、祈りによって始まり、「収穫の主に祈りなさい」との宣教会メッセージで締めくくられた、祈りの年会となった。

今回は特に「祈りによる」年会となった。例年、2月に首都圏の牧師と神学生による準備祈禱会を行っているが、今年はオンラインで2回の準備祈禱会を行い、全国の先生方も参加され、祈りの手が挙げられた。更に年会当日の開始前にも祈禱会が行われ、祈りが積まれた。

昨年引き続き、議場とオンラインの併用で年会が行われた。

●議事会

岩上祝仁代表による小礼拝（詩篇五〇篇）ののち、議事会が開会された。

前々回の年会は中止、前回の年会はオンラインだったため、献花式を持ってなかった伝道者子女9人が画像と共に紹介された。更に卒業時の証しを伺えなかった4名の先生方が紹介され、歓迎された。

IWF宣教師のビデオによるあいさつがなされた。更に引退される先生方6名の紹介とともに、ビデオによるあいさつがなされた。

国内教会局から

コロナ禍にある教会
愛を最優先に

新型コロナウイルスの影響が長引いて、「できない事」ばかりに思いが行きがちな私たちです。もし収束したら何ができるでしょうか。今からいろいろ考えて想像が膨らみます。



聖書の最後の晩餐の箇所
に「イエスは、父が万物を
ご自分の手に委ねてくだ
さったことを……知ってお
られた」（ヨハネ一三・3）
と書かれています。主のな
さることをとどめるものな
ど何もなく、何でも自由に
できる時、主は弟子たちを
極みまで愛して、その愛を
表されました。真っ先に弟
子たちの前に膝を折り、彼
らの足を洗われたのです。

また「あなたが愛しておら
れる者が病氣です」（ヨハ
ネ一・3）と聞けば、そ
こが迫害された場所であつ
ても、すぐに立ち上がって
そこに向かわれました。主
はすべてにまさって愛を最
優先になさるお方です。
コロナが終わったら、い
やコロナ禍の中でも愛を現
すことを最優先にしたいも
のです。（阪下謙）

■ボルソナロ大統領支持者多い町はコロナ死亡率高い
医学雑誌『ランセット』が3月14日、大統領選でボルソナロ氏の得票率が高かった市は新型コロナ感染症による死亡率も高いと記事で指摘。オズワルド・クルス財団とブラジリア大学、リオ連邦大学の研究者たちが5570市のデータから、18年の選挙でのボルソナロ氏支持率と21年の新型コロナの死亡率の相関関係を示した。
大統領がマスク着用やワクチン接種の効果を否定し、デモやモトシアッタで人ごみを作らせていた事は周知の事実。医療レベルなどが似ている市の死亡率の比較では、ボルソナロ氏支持率が高かった南部や南東部の市の死亡率は、支持率が低かった北東部の市のそれを上回った。一例は、セアラ州クラト市とリオ・グランデ・ド・スル州サピランガ市で、人口10万人あたりの死者数（死亡率）は、前者が110人、後者は360人だつ

た。中程度の規模での比較でも、ボルソナロ氏支持率が高いと死亡率が倍増という結果が出ている。研究では、連邦政府が全国規模の方針を立てなかったために市がコロナ禍に関する情報提供源と
バチカン・ニュースによると、教皇フランシスコは4月10日「受難の主日」ミサの後半、「お告げの祈り」で、「武器を置いて、復活祭の停戦に入るように」と呼びかけた。祈りに先立つ説教で、教皇は「神にできないことは何一つない」（ルカ一・37）という、マリアへのみ告げの言葉を繰り返した。「神にできないことは何一つない。たとえ、終わりが見えない戦争、たとえ、毎日非武装の市民に対する残忍で冷酷な虐殺を目的に当たりにする戦争であっても、それを止めるために、神に祈ろう」「復活祭を前にしたこの日々、私たちは罪と死に勝利した主イエス・キリストを記念するための備えをしている。それなのに、今日戦争がある。なぜこの世の方法で勝とうとするのか。キリストはいのちと愛と平和が統治するために十字架で死なれた」と説き、「武器を置いて、復活祭の停戦に入るように」と呼びかけた。（平瀬聡樹）



海外トピックス

「イエスは、父が万物を
ご自分の手に委ねてくだ
さったことを……知ってお
られた」（ヨハネ一三・3）
と書かれています。主のな
さることをとどめるものな
ど何もなく、何でも自由に
できる時、主は弟子たちを
極みまで愛して、その愛を
表されました。真っ先に弟
子たちの前に膝を折り、彼
らの足を洗われたのです。

読書の

ひろば



キリストのように赦すとは：

罪を負う人

ウイリアム・ユーリイ著
定価1000円（税込）
Kindle電子版500円
*アマゾンで直接ご購入を！

「聖化と赦しはどのような関係にあるのでしょうか？」と聞かれ
たら、皆さんはどのようにお答え
になりますか。恐らく、多くの方
は、十字架の赦しによって、私た
ちが聖化の恵みへとあずかって行
くという視点で答えられるのでは
ないでしょうか。まさに正解です。
しかし、自分が神様によって赦
されているように、周りの人を赦
すということを突き詰め、そこか
ら聖化について考えたことはある
でしょうか。本書は、2004年
J日A聖化大会の講師でもあった
ユーリイ師が、聖書的な赦しを
テーマに書かれた一冊です。ユ
ーリイ師の長年の研究や個人的な体
験が随所に出て来ます。神様が私
たちに与えたいと思っているのに、
私たちが方で受け取っていない多
くの恵みがあることを、この本を
通してユーリイ師は私たちに示し
てくれます。

今までに多くの日本人留学生が
ユーリイ師の下で神学を学んでき
ました。私も台湾にいる久保光彦
師と共にユーリイ師の下で学ばせ
て頂きました。ユーリイ師の家に
も何度も招いて頂き、今でもメ
ルなどで交わりをさせていただ
いています。「どうすればここまで
愛に満ちて人に接することができ
るのだろうか？」という驚きを多く
の学生たちが持って来たと思いま
す。この本を通して、ユーリイ師
と神様との深いお交わりの一部を
垣間見ることが出来ます。

神様が私たちに与えてくださつ
ている赦しを、今度は私たちが誰
かに実践して行こうとする時、そ
れがいかに難しいか、私たちは体
験的に知ることになります。しか
し、その気付きこそが神様を体験
するチャンスであり、聖霊によつ
て心を探っていただきつけかけに
なります。私たちが思っている以
上に神様の恵みは大きく、神様の
愛は深いものです。

この出版に関わった者として、
一人でも多くの方々に神様の恵み
に与っていただければ願ってお
ります。ユーリイ師も日本の皆さ
まの祝福になりたいということで、
祈りと財をもって支援してくださ
いました。（東京FM 伊藤真人）



全国BA教区主事会議

春の教区会に向けての準備

年会で提案された
組織改革／式文
質疑の時を持ちました

呉教会 内山忠信

4月5日、全国BA教区主事会議がZoomを用いて開催されました。この会議は、毎年春と秋の2回行われています。

大兼久国内宣教局長による小礼拝では、イザヤ書四二章1〜4節のみことばが開かれました。

最初に阪下師より「教区主事の役割」について説明されました。主事の役割は、①各教会の月報管理とBAへの送付、②教区会の開催と進行、③教団との連絡、④BA・教区主事会議の出席が確認されました。特に③の教団との連絡に関しては、災害時に各教会から教区主事に連絡し、主事は災害対策委員長（葛田直毅師）に連絡することが確認されました。教区主事が被災した場合は、その教区の誰かが代わりに連絡を行ってください。災害で被害がない場合も、「被害なし」の報告を伝えるようにお願いします。

それから、今後想定される働きとして、2つのことが語られました。



①連携と協力。今後、対処が難しい問題、想定外の事態に取り組み際、教団が最善を尽くすために、BAとの連携・協力を図る。

②認識の共有と支え合い。それぞれの教会が健全な運営をし、困難な課題に取り組みながら成長していくために、教区内で支援するだけでなく、教区を越えて、課題や重荷を分かち合い、互いに支え合うことが必要であると認識し、相互支援の意識を持つこと。

その他、この会議では、条例審議委員会、組織改革検討チームから提言についての説明がありました。式文はパイロット版を使ってみて、意見を出してくださいとのことでした。組織改革は出された提言について、教区会からの意見提出が要請されました。

年会を越え、全国BA教区主事会議をもって各教区の営みが始動しました。互いのために祈りながら進みましょう。

異端・カルト対策懇談会

異端／カルトへの警戒
活発化する勧誘活動

呉教会 内山忠信

異端は、聖書の真理から完全に逸脱し、誤ったことを教え、カルトは指導者に盲従させ、信者の自主性を阻害しています。

最初から異端・カルトに入ってきた人は一人もいません。気がつかないうちに、いつのまにか異端・カルトの集団にいたのです。気がついた時「まさか、わたし」と驚きます。被害者の家族は「まさか自分の子が」と驚きます。その「まさか」が、自分や自分の家族に起こってしまうのが、異端・カルトの問題点なのです。

●学生の皆さんへ
今、大学・高校での勧誘活動が活発で、多くの学生が引き込まれています。SNSやゲームのサークル活動に誘って来ます。簡単に個人情報交換しないようにしましょう。聖書を学ぼうと誘われた場合、キリスト者学生会（KGGK）なら安心ですが、それ以外の場合は教会の牧師に相談しましょう。

●家族の皆さんへ
祈りつつ見守り、本人の変化に気づいたら牧師に相談しましょう。早く対応し守られた例があります。み守りをお祈りしましょう。



神さまとのオンライン

すべてのことがコロナ仕様になって、早くも3年以上が過ぎ、オンライン形式がさまざまな場面ですっかり定着しました。もしこれがなかったら、事態はもっとずっと深刻だったことでしょう。できなくなったことが多い中で、これだけは、おかげで、と言えることもありません。

ほんとうに便利だと思う一方で、電気と電波がなければ成り立たないというところが、オンラインの大きな弱点とも言えます。以前大型台風の被害で数日停電になったときには、生活の不便だけでなく、電話もメールもできないことがとても大きなストレスでした。何か自分だけが遮断されているような気分になり、自分もここまで慣れちゃまっているのだと痛感させられました。

停電だけではありません。電波状況が不安定になっただけでも、さまざまところに支障が出ます。礼拝の配信も、電波状況が悪くなると、回線の回復に気を取られ、礼拝どころではなくなってしまうます。電波でつながっていることがあたり前の世代は、つながらないというだけで、精神的にも不安定になってしまいうという話も聞きます。そういう意味では新しいストレスを生んでいると言ってもいいのかもしれない。

インターネットがちゃんとながっているかどうかが一番大事。それがなくなるともたつてもいられない、という現代の社会。それに比べて、私たちがどうして、神さまとつながっているかどうかの大事度はどれくらいなのだろうと考えさせられました。電波が届かないところに行ったら、つながる場所を求めて探し回り、回線が切れてしまったとなったら、何をさておいても、それを回復させることに集中する。それくらいの熱量で、私たちは神さまにつながっていることを大切なこと、重要なこと、欠かせないこと、ととらえているのでしょうか。

インターネットに払う以上の熱量で、神さまにつながろうという思いを持ち続けるなら、どんなに豊かな恵みが私たちの生涯に注ぎ込まれることでしょう。神さまから出る愛と恵みの電波は、隅々まで十分に行き渡り、ここまでは届かないという場所は地上のどこにもないのですから。（葛田順子）

巻頭言

困難な中でも「前のめり」に



世界宣教局 葛田康毅

札幌では、5月初めに桜が満開になります。豪雪の後の今年の春は、格別な嬉しさを感じます。そんな札幌の4月初め、教会裏の細いスペースの雪が解けると、数か



広げた翼

Immanuel His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

http://www.immanuel.or.jp/world/

月も雪の下に閉じ込められながらも春を待ちわびていたチューリップが芽を出していました。使徒パウロはコロサイ四、3に「神がみことばのために門を開いてくださった、私たちがキリストの奥義を語るように祈ってください」と書きました。そこには春を待つチューリップのように、その身は捕らわれていても、宣教の門が開かれる日を思いつつ、宣教に「前のめり」になっていた姿勢を見ることが出来ます。

1年前の5月、私たちはコロナ禍のために渡航の門が閉じられる寸前に宣教師ご家族を台湾にお送りしましたが、このコロナ禍でフィリピンでは宣教師報告の帰国を断念、ザンビアの宣教活動は中断、香港の近隣への働き、カンボジア

の宣教師の渡航は阻まれてきました。今年、ケニアの宣教報告が実現するように祈っていますが、困難な状況が続いています。

この主イエスが与えてくださった宣教の使命、熱い思いに冷水をかけ、諦めさせようとするような状況の中で、「聖と宣」のために興された私たちの教会には、パウロの心の中に熱く燃え続けた宣教への「前のめり」な思いがあるだろうか、と問われているように思います。

札幌にOMFの新宣教師が日本語や文化を学び、将来の奉仕に備えるための宣教センターがあり、その責任者の宣教師夫妻が札幌教会に出席なさっています。コロナのために何か月も入国できない11組の宣教師のことを伺い、入国できるまで、宣教師たちと支援する教会の宣教への熱意が萎えてしまわないように、と祈り続けました。3月に入国規制が緩和すると、全宣教師が入国されただけでなく、夏までにさらに多くの宣教師が来日される予定だそうです。宣教に「前のめり」で居続けられた背後の教会と宣教師の姿勢に、多くを教えられました。

終末の予兆には、戦争、地震などとともに「福音が全世界に宣べ伝えられ」る(マタイ二四・14)、という宣教の成就があります。主の再臨の近いことを憶えつつ、困難な状況にあっても来たるべき時のために、私たちも宣教に「前のめり」な姿勢を保ちたいですね。



KENYA

ケニア・テヌウェク

葛田就子*2022年4月12日

新型コロナウイルスは今のところ大分下火になり、マスクの強制も一段階緩くなって、公共の場でマスクをしていないという理由で逮捕されることはなくなっています。ただ、引き続き必要のあるところでは勧められる、ということ、病院内、特に回復室に来られる方々には引き続きマスクの着用をお願いしています。

そのように規制が緩んだことを受けて、3年ぶりに対面式のWG Mケニアリトリートが持たれました。今年是对エジプト宣教師の参加もあり感謝でした。空港や、ビュッフェスタイルの食堂で皿に盛り付けてもらう場面ではマスクの着用が求められましたし、費用の関係で短縮日程ではありましたが良きリフレッシュの時が与えられました。講師をお招きしての短くも連続的な学びや各種の報告、今年帰国予定の宣教師のため祈る時などが持たれました。(私も祈っていたいただきました。) 午後は基本

的に自由時間というゆったりした日程でしたが、それでも、赴任後に誕生し、名づけに関して一部私と同じ名前を命名され深い感動を与えてくださったお嬢さんなどをアメリカでの大学進学のために送る会、母教会の年齢制限の決まりですと受洗を待っていたお嬢さんを含む2人の宣教師子女の洗礼式、内科・医長・電子カルテの運用などさまざまに奉仕されていた医師と地域女性の聖書の学びを広げつつ、自分の聖書を持てるよう聖書の配布や地域女性の援助(その名もタビタ・ミニストリー。使徒九章より)をなさっていた夫人お2人の引退を送る送別会、新型コロナウイルスの影響で長らくできなかった聖餐式などが含まれていました。一方で、外国人が一堂に会する企画のため、最後の1人が会場を離れるまで、メールやネットに情報を流さないようにというテロへの配慮が勧告されていました。リトリート直前にIGMの年會が入る日程となり、時差の関係で午前3時台からの参加に不安もありましたが、前日から休暇をいただし、無事参加を許されました。新型コロナウイルスの影響でこしばらく停止されている船便に加えて、ウクライナ情勢の影響だそうですが航空便も数週間前から停止されている中、ネットを通して日本の方々とズームを通して繋がったことは不思議でしたが感謝でした。3月はまた、思いがけない所から献金が与えられ、心臓外科手術

関連や重篤の方々には用いられる機器関連の修理や新規購入が推進された月でした。祈って与えられたというより、2月にお知らせをいただいでどこに、何のために、と小禱した時、お知らせの直前まで関わっていたこと、ここしばらくずっと悩まされていた事の解決になると示され、祈る前に知っていたくださる方(マタイ六・8)とありますが、祈る前に背後にすでに「義しき人の篤き祈り」があり、「全能なる神の御手を動かす」がなされたこと、父なる神様が小さき者を心に留めていてくださること、また不敬に聞こえるかもしれませんが、長年の課題だっただけに、「どうだ、私はやる時はやるんだ」という天のお父様のドヤ顔(?)が見えるような見えないような気がして、しばらく感謝と感動と暖かい思いで半分放心状態でした。

年会の前々日には、すでにかなり骨組みができ上がっている、手術室横に建築中の建物に主任ともども招かれ、現場スタッフとしての視点からの意見を聞かれ感謝でした。許されるならば、建物が完成するまでにいくつかの修正も起こるように祈っています。手術器械の滅菌をする施設が遠く離れた建物でなく、ほとんど同じ屋根の下に来るとい計画のもと、2階部分を歩き回れるくらいまで具現されているのは大きな感謝です。

いつも麻酔科のためお祈りいただいておりますが、2人のナース



が麻酔科看護師のコースへ進学することになり、送別会のケーキを頼まれた月でもありました。将来麻酔科が増える希望は感謝な一方、進学できるだけの実力があるナースが2人抜けてしまったということでもありますので、引き続き他の部門を含めた働き手のためにもお祈りください。



TAIWAN

台湾

久保光彦・せきな*2022年4月7日

ロシア軍侵攻から1か月が経過した今もウクライナでの戦闘は収まる気配を見せず、今回の軍事作戦によって世界的に様々な影響も出ていますが、台湾は今のところ平安のうちに守られていることを感謝いたします。

3月の半ばより、ビジネス・ビザ(仕事で短期間來台する方用)に関しては申請の受付が再開されましたが、観光ビザについてはもう少し先のことになりそうです。(今これを書いてる4月初旬に差し掛かってから国内感染者が増加傾向にありますので、観光再開はさらに先の話になるかもしれません。)

台湾国内での新型コロナウイルス感染者数は日本と比べるとはるかに低い数が続いていますが、それでも気にする方は気にされており、この先の数字次第ではまたいろいろと検討する必要があるかもしれません。そのような懸念材料がありますが、教会活動は順調に行うことが許されており、感謝です。しばらくワーキングホリデーで台湾を離れていた方で、以前に台中教会に集われていた方が、久しぶりに教会に顔を出され、その後も継続されています。

3月は教団の行事に参加させていただく機会がありました。一つ目は年会への出席でした。本来であればそのために帰国する必要がありますが、コロナ渦のメリット(?)でしょうか、オンライン開催となりましてので、Zoomで

参加することが許されました。台湾に赴任して初めての年会でしたが、初日の午後に皆様にZoomを通してではありますがご挨拶をする機会もいただけて感謝でした。

ほかの宣教師の先生方もオンラインで参加することが許され、元気そうなお顔を拝見することができて感謝でした。

また、年会の次の週には、とくにキャンフェスティバルにもZoomで参加することが許されました。細田先生より「宣教地を感じる事ができる場所から、宣教地にちなんだクイズを出すように」と依頼がありました。そこで、日本でもタピオカミルクティーで有名(でしょうか?)な「春水堂」が教会の付近にありますので、そのテラス席から3問出題させていただきました。中高生のみならず楽しんでいただき、また少しでも宣教地に興味や関心を持っていただけたなら幸いです。

お祈りいただいている日本語カフェも、第一期の生徒さん3人が毎週継続されて、日本語学習を励まれています。中には将来日本で宣教をしたいと考えている方もおられます。小さな働きですが、豊かな結果に結びつくようにお祈りいただければ幸いです。また、ウクレレチームもイースター礼拝での特別演奏に向けて練習を重ねています。良い演奏のご奉仕ができますようにお祈りいただけます幸いです。



PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子*2022年4月8日

家族のことですが、長女の愛美は無事に日本人小学校の1年生が終わりまりました。小学生になって早々台湾への引越しがあり、また、こちらに着いてからは隔離やオンライン授業など、通常登校できなくなるまでにもいろいろありましたが、守られて1年目を終えることが許されました。次女、三女も幼稚園に毎日元気に通っています。長男は8月から幼稚園に入る予定です。家族のためにも引き続きお祈りいただけます幸いです。

主は言われた。「わたしの臨在がともに行き、あなたを休ませる。」(出エジプト三三章14節)

3月に入り、セミが鳴き始め、フィリピンに夏が到来しました。最近夜も寝苦しいくらい暑いときもありますが、何とか扇風機で済ませることができています。

5歳以上1歳以下の児童を対象としたコロナワクチン接種があ

り、長男実喜と次女実和子が無事に2回の接種を完了することができました。大使館からは地域のコミュニティで設けられる接種会場でも日本人が速やかにワクチン接種を受けられるようにフィリピン政府と交渉すると連絡を受けていたので、何のトラブルもなく接種を受けることができたのは感謝でした。

恭子の甲状腺嚢胞が癒やされました。主治医より経過観察をするように言われてから6ヶ月が経ち、もう一度、検査の上、主治医に診ていただいたところ、異常はなく完治しているとのことでした。これまでのお祈りに心より御礼申し上げます。

日本国内の中高生向けに開かれた「とにフェス」にZoomでゲスト参加しました。フィリピンからは3問、台湾からも3問出題があり、私たちも中高生と一緒に楽しい時間を過ごしました。国内にいる中高生と交わり、また宣教地について少しでも知っていたく機会を与えてくださりありがとうございました。私たちは、宣教地に派遣される直前に、第一回目の「とにキャン」にスタッフとして参加する機会がありました。その時以来、ここまで中高生への働きが継続されていることへの感謝と、中高生たちの活発な参加に大いに励まされる機会となりました。長女も参加し、同年代の仲間とともに幸いなときを過ごすことができました。日本で、とにキャン

ンが対面で開催されることになったら、ぜひ参加したいとのことでした。



「私たちの戦いの武器は肉のものではなく、神のために要塞を打ち倒す力があるものです。」
(IIコリント1・4)

カンボジアの宣教の働きだけではなく、全世界の宣教の働きに言える事は、時には前進しているかに見える時と、後退をしているかのごとき状況にある時、戦いの外側の成り行きに一喜一憂する信仰では、戦いを継続する気力、士気が持続しないことに繋がってしまう、ということですね。

先月の水不足問題に主が奇跡的に時季外れの雨と、その日の夜に水道からの水、という報告を得たことを報告して、ともどもに主に感謝をおささげしましたが、その解決は一時的だったことが、今月のスカイプトークで分かりました。再びヴァンディ師の生活は「水

運び」が続いているようで胸が痛む思いです。建設会社は地中に埋められた上水用パイプを太いパイプに取り換えるには莫大な費用を要するため、変える気持ちはないとのこと。相変わらず建物の増築はどんどん進んでいるそうです。その建物はほとんど中国人による投資の格好の材料となっており、クメール人と中国人の習慣や、時には言語の問題など、なかなか両国民の交わりは難しいものが見られます。ヴァンディ師は、将来中国人が勢力をもつてこの国を占拠する時が来るのではと心配していると語っておられました。

もう一つの問題は、法律の改正で、宗教団体の法人制度が厳しくなった事です。教会として認められるための条件として50人以上の会員数が求められることになり、それまでは教会の看板も出せないとのこと。益々厳しくなり出した戦いを彼らがどう乗り越えて行けるか。これからがいよいよ本格的な霊の戦いに移行して行くように感じますので、さらにお祈りに力を注ぐ必要を覚えております。

グレッジ師は地方の伝道師たちへの巡回を開始しました。報告がまだ来ていませんが、来月には、と彼からの報告を待つております。
写真は局長とヴァンディ師、グレッジ師との初めてZoomを用いたの会話の様子です。マーク宣教師は米国で足止めのためやむなく欠席でした。



■会計報告3月分
宣教献金 一、二二八、〇四〇円
月平均 一、六八六、四八七円

お祈りの課題

- ◆ケニア(薫田就子)
●リトリートが守られた感謝と今後の各宣教師の成長のために
- ◆病院の働きが、福音の深化と伝達のために用いられるように
- ◆麻酔科、整形外科等の働き人(ルカ10の2)が起こされるように
- ◆台湾(久保)
●世界の平和が守られるように
- ◆継続されている日本語クラスが祝され、良い働きとなっていくように

◆コロナ感染者が抑えられ、教会や学校でオンラインに戻ることを避けることができるように
香港(鹿島)
◆4月20日からの緩和政策によって、対面礼拝が再び許されるように

◆コロナ再拡大が繰り返されている中、特に経済的な影響を受けている教会・群れのために
◆ネット上での新たな規制が施行されている中、文書伝道奉仕者の上にて知恵が与えられるように
◆牧師たちの健康が支えられ、速やかに出入りするためのマルチピザが与えられ、使命を全うできるように

フィリピン(豊田)
◆聖書大学のオンラインクラスで学生たちの学びが祝され、霊肉ともに守られるように

◆聖書大学では新年度(8月)から対面授業を計画中、そのための経済的必要と準備が整うように
◆事故、事件、怪我、過ち、災害病氣、疫病から家族が守られるように。常夏の網膜静脈閉塞症の回復のために

カンボジア(薫田緑乃)
◆伝道者、宣教師の霊的一致とヴィジョンの確認が常に新鮮であるように
◆プノンペン市に強いキリストの教会が建ち上がるために、救霊のみわがなされるように
◆伝道者、宣教師だけでなく信徒となったクリスチャン一人一人がたましいを救いに導けるように

聖宣神学院報



Immanuel Bible Training College

福音のためにあらゆることを

院長 ● 林 正弘

「私は福音のためにあらゆることをしています。」

(1コリント九・23)

新しい学年度が始まり、各科目の授業が進められています。教室に集まって行われるものも、各自が自分の場所でパソコンを立ち上げてオンラインで行われるものもあります。オンラインの使用も2年が経過し、どちらも「普通」に感じられるようになりました。場合によっては教室の授業をオンラインでつないで併用して行われることもあります。

やむを得ず始めたことが大きな力となったり、新しい分野の開拓

とも言っています。パウロが、またウエスレーが、今の時代に働きを進めるとしたら、いったいどのようなことをするだろうか、とふと考えます。まさにあらゆる手段を活用するに違いありません。しかし、ただ何でもやってみる、ということではありません。「福音のために」という一点においては決してぶれなかったのがパウロでした。

神学院は、今月17日に創立記念日を迎えます。創立当初と今とは、いろいろなことが変わりました。これからも変わっていくことでしょう。しかし、昔も今も変わらない、また変えてはならないものがあります。その見極めが大切です。不変の主を見上げつつ、行くべき道を進みたく願っています。



ハイブリッドで始業礼拝が行われました

神学エッセー

神のみこころ



梅田 昇

2 具体的なみこころⅡ他方、具体的なみこころは、簡単に把握することは難しいのです。例えば、どの学校に進学するか、どのような職業に就くか、だれと結婚するかなどの具体的な問題に対する主のみこころを知ることは簡単ではありません。生活の具体的な問題に、天からのひらめきがあるとは限りません。

自分の願いや計画を神のみこころと捉える危険性があります。人間は生まれながら罪人であり、自己流に物事を考え、行動しやすい傾向があります。神のみこころと思いついてプロポーズしたら、断られてしまうこともありえます。

1 原則的なみこころⅡ神の原則的なみこころは、聖書の中に明らかにされています。聖書には愛の神様の計画とみこころが啓示されています。パウロは「神のみこころはあなたがたが聖なる者となることです」(1テサ四・3)と述べています。聖なる神様が信者にきよさを求めなされることは当然だと言えます。ヤコブは「だれも滅びることがなく、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです」(Ⅱペテロ二・9)と書き送っています。ですから、福音を伝えることは神様のみこころだと言えます。このように、原則的な神のみこころは聖書に啓示されているので、聖書を読み、みこころを理解することが大切なのです。

◆新学年のスタートに

主の備えを受け取る

正規コース 林 眞光まことあき

「アブラハムは、その場所の名をアドナイ・イルエと呼んだ。今日も、『主の山には備えがある』と言われている。」(創世記二二・14)

今回のタイトルの聖書箇所は私の所属するシオン・キリスト教団の年間聖句です。年度が始まるにあたって改めてこの聖句が開かれたとき、私にとっても今年度を歩むうえで心に留めたい御言葉だと感じました。

私は今年で3年生になります。神学院での座学の学びは今年が最後で、来年度には教会での実習が始まります。あと一年間しか学べないという焦りとこのままでいいのだろうかという不安な気持ちはありますが、4年生での実習、また卒業後教会を建て上げる者として遣わされることを意識しながらこの1年間歩んでいきたいと願っています。

その歩みをするうえで二つの事を大切にしていきたいと思えました。一つ目は「私には自分の思いを超えた神様の最善の備えが用意されている」という事を信じ、そ

れを受け取っていく事です。ある日の礼拝の説教でこの箇所のアブラハムは自分自身にある恵みの事実すなわち、神のこぼるの真実を胸に秘めながら主の備えを信じていたと教えていただきました。私の献身の御言葉に「私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをあらかじめ備えて下さった(エペソ二・10)」という御言葉があります。この御言葉を通して献身に導かれたという意味で、この御言葉はまさに私にとつての恵みの事実になっていきます。この恵みの事実を胸に秘めながら、主が私の思いを超えて牧師として整える備えをして下さると信じたいと思えます。そして今私に与えられている学びと経験が神様の備えて下さっている最善のものだと信じて受け取り、一つ一つを誠実に取り組みたいと思います。

二つ目は神様の備えて下さっているものを見る目を養うということ

とです。今の自分にとって関心を持つているテーマを深く学び、多くの人と関わる経験をすることが必要だと感じています。そのことと授業や毎週の教会実習、日々の生活を両立することはなかなか難しいなと感じるのが正直な思いです。しかし自分では気が付かないうちに神様が備えて下さることもあれば、自分の思っていたことを超えて神様の最善の備えが与えられることがあると思います。自分ではできなかった、できなかったというこ

とだけに目を留めるのではなく、神様が私のために備えて下さったものは何だったのかに目を留めたいと思います。

2021年度の皆様のお祈りとご支援を感謝いたします。私にとって大きな励ましと支えであり、何より牧師になるうえで大切な備えの一部になっています。新しい年度もお祈りに覚えていただければ幸いです。



神学院スタッフ…恵みの想起

桜咲く、神学院の春

経理課 渡辺真理

この春は寮生の出入りがなかったかな年でしたが、神学院本館前の山桜はとてきれいに咲きました。何も変化がない春ですが、新年度の授業開始の週、それも強風の日

●4月4日より前期が始まりました。クラスと担当教師です。
火曜日Ⅱ牧会学Ⅱ(田中進師)、キリスト教倫理(藤本満師)
水曜日Ⅱ五書(川嶋直行師)、牧師と霊性、牧会演習(田辺寿雄師)
木曜日ⅡメソジズムⅡ(梅田昇師)、礼拝学(矢木良雄師)
金曜日Ⅱ宣教論Ⅰ(田辺師)、教理Ⅰ(林正弘師)、プレイズ&ワ

来年の桜はどのように神学生方を迎えてくれるでしょうか? 皆さまに期待し、祈り待ち望みます。「その人は流れのほとりに植えられた木。時が来ると実を結びその葉は枯れずそのなすことはすべて栄える。」(詩篇一・3)

●水曜夜のフェローシップも4月6日より始まりました。交わりと祈りの時として隔週で行われます。
●火、木曜の昼食も始まりました。信徒によるご奉仕に感謝します。
●4月12日(火)夜に運営委員会が、21日(木)午後には図書委員会
●5月17日は、神学院の創立記念日です。感謝献金へのご協力を心から感謝いたします。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。3月の会計報告をさせていただきます。

3月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
¥1,500,000

教会員による
「神学院サポート献金」
¥664,860
教会団体による「神学院献金」
¥468,800
合計¥1,133,660
その他の献金(一時・特別)
¥27,000

・振替：00230-0-10138

学苑だより



教育局・信徒局



次世代育成のために祈り、語り合い、力を尽くします！

教育局は牧師の生涯教育と、信徒の方々の学びの支援を行っています。特に次世代を担う教会学校の子どもたちから社会人の青年たちが神さまの恵みに養

われるように活動しています。信徒局はエリア制が動き出しました。それぞれの教会で主に仕える信徒活動を盛んにしていきます。ご期待ください。

とにキャンフェスを開催

Zoomで開催しました 慣れたスタイルが一番



教育局中高生課 細田恒太郎

春休みの最中、3月29日(火)に、昨年と同じく、Zoomを用いてとにキャン・フェスティバルが開催され、学生、スタッフ合わせて46名の方が参加しました。

まず持たれたアイズブレイクの時間では、台湾の久保光彦先生、フィリピンの豊田先生ご夫妻がそれぞれ現地から、台湾、フィリピンに関する実況クイズをしてください、現地の写真なども用いながら三択クイズでの勝ち抜き戦が行われました。宣教報告などで宣教師に接する機会があっても、中高生を対象とし、現地からライブで触れることは、ほとんどないことだと思えます。そうした意味でも、今回、学生が直接、宣教師の先生方と交わり、その働きの一端を見ることができたのは幸いでした。

またそれぞれグループに分かれ自己紹介をしたり、チーム対抗のゲームをした後、教育局長の小川宣嗣師よりメッセージが取り次がれました。

「慣れたスタイルが一番」と題

して、有名なダビデとゴリヤテの戦いの場面から、サウル王から与えられた鎧を脱ぎ、慣れた羊飼いのスタイルに戻って戦いの準備をしたダビデの姿に注目しました。

使った慣れた羊飼いの杖と石投げ器を用いて、イスラエルの命運を決する戦いに赴いていったダビデ。特に、ダビデが戦うために河原で5つの石を拾いあげた出来事を取り上げ、先生自身が、これまでの信仰生活の中で、困難を乗り越えるための力となったことは、また人生の転機となったことばなど、5つの聖句をご紹介くださり私たちが普段、触れているみことばが、私たちの戦いの力、戦いの武器となることを話してくださいました。新年度、大きな変化の中に向かう学生にとって信仰のチャレンジとなる集会となりました。

その後、グループに分かれて分かち合いと祈りの時がもたれました。グループによっては、予定の時間を延長して、長く交わりの時間を楽しんでいました。普段、教会で同世代のクリスチャンが少ない子にとってはもちろんのこと、そうでない子にとっても対面での集会が持てない中、こうした集会を通じて、同じ信仰を持つ同世代の仲間と繋がれたことは、大きな励みになったのではないかと思います。励まし、送り出してくださいました教会、また背後での尊いお祈りに心より感謝しつつ、引き続き、中高生の信仰のためお祈りいただければ幸いです。

信徒局から……

カナ・フェロシップの開催 6月18日にZoomで 信徒局 新年度の課題 3つの課題と取り組む

信徒局長 斎藤純雄

コロナ禍の中、ここ2年は通常のカナ・フェロシップを行う事ができませんでしたが、昨春秋にはオンラインでの開催で全国から参加して下さり感謝します。

しかしこの間、2015年以来の活動を振り返り、聖書的結婚観を現代の世相の中で、もっと多くの若い世代の方々に知って頂く必要を強く感じておりました。

そこで、もう一度基礎から仕切り直して、今年再び水谷潔先生にお願ひし「結婚とは何か？なぜ結婚するのか？」という題でセミナーを行って頂く事になりました。

人の人生に深く関わる結婚の問題を若いうちからしっかり考えて頂きたい、また家庭形成の観点からも既に家庭を持って子どもを育てておられる親御さん方にも聴いて頂きたいという篤い思いと祈りを以て企画致しました。

今回は青年部の委員の方々にもご協力を頂きながら一緒に考えて行きたいと思っております。

6月18日(土)午後1時30分か

らZoomで行います。結婚に関心と重荷のある方々のご参加をお待ちしています。(カナ・フェロシップ委員長 馬場満子)

* 新年度の課題

▼Ⅰ 後継者問題
これまで信徒局を足りないながらも懸命に支えてきた局長を始め中心メンバーの多くが、いつの間にか後期高齢者の年齢に達し、健康面の不安も抱えつつあります。全国信徒フォーラムも皆様のお祈りに支えられて一段落した後、真剣に後継者の育成に局を挙げて取り組んでまいります。

▼Ⅱ エリア協議会の始動
昨年度ようやく形を成した信徒局エリアが昨秋初めての顔合わせ会合を経て、本格的な始動を目指します。全担当者が日程を合わせることが至難のことですので、大きく東西2つのエリアに分けて、エリアコーディネーターを中心に年会で提示された15の改革案のうち信徒局関係の検討、次の総会期の信徒代議員の信徒による選出への取り組み、次の信徒フォーラムの策定などの重要課題に取り組んでいただきたいと思います。

▼Ⅲ 兼牧教会の連帯
今後ますます常駐牧師不在の教会が増えてまいります。兼牧教会の信徒と牧師がお互いの困難や取り組みを分かち合い、まず何よりも互いに祈り合うところから真の牧師と信徒の協力の結実を願っております。

公報

本部通達

「主よ あなたはご恩寵のうちに私を私の山に堅く立たせてくださいました。あなたが御顔を隠されると私はおじ惑いました。主よ あなたを私は呼び求めます。私の主にあわれみを乞います。」
(詩篇三〇篇7〜8節)

新年度のひと月が経過しました。教会と牧師方をはじめ群れ全体に主の守りがあるようにお祈りいたしましょう。

夏に向けての各教会、教区の計画に、主の守りと祝福を期待しながら前進しましょう。

■本部

(会議)

16日(月)〜17日(火) 教団運営委員会

(研修会)

30日(月)〜31日(火)

一足先の未来を考える研修(厚生部)

▽本部業務時間

毎週火曜日 午後1時〜4時

(出版事業部)

毎週木曜日 午後1時〜4時

国内教会局

(会議)

13日(金) 国内教会局実務会(オンライン会議)

《JEA・JEF関係》

◇6月6〜8日 JEA総会(掛川)

◇6月21〜22日 JEF総会・福岡

■世界宣教局

▽4月14日、局の運営委員会が行われました。

▽4月26日、春の局員会をオンラインで開催し、国内の局員とIGM宣教師が出席しました。

▽ケニアの葛田就子宣教師は、今年6月末で第六期の働きを締めくくり、帰国されます。8月より来

年4月までの予定で、国内での巡回奉仕をいたします。対面とオンラインのどちらでも可能です。巡回の申込は、神栖教会の葛田敬子先生まで。5月より受付を開始します。

▽WGMのホーリー宣教師は4月6日、日本に再赴任されました。これからのご奉仕のためにお祈りください。

▽JOMA 50周年企画「ズーム・イン・ミッションII」が5月6〜7日にオンラインで開催されます。参加費無料、どなたでも参加できます。詳細は案内をご覧ください。

▽5月24日(火)、IWF春の理事会が予定されています。

■教育局

(会議)
▽局運営委員会
9日(月) 午後1時

(Zoomオンライン開催)
▽教会学校校友会
10日(火) 午前10時

(Zoomオンライン開催)
▽信徒教育課会合
19日(木) 午前10時

(Zoomオンライン開催)
(教育部・生涯学習課)

▽有志による読書学び会
今月から聖潔の良書「喜悅の盈満」(葛田二雄師)を用いて、

小グループの読書学び会(オンライン)を開始予定です。

(詳しくは浜松教会・葛田順子師まで)

(教育部・信徒教育課)
先月の信徒伝道者認定更新者リストに不備がありました。お詫びとともに追加をいたします。

(更新)
坂本淳兄(八王子教会)

▽信徒向け聖書講座(無料、各教会で自由に利用可)

内容II「使徒の働き」の学び(第17回目まで公開中)

講師II岩上敬人師(JEA総主事)

▽過去の信徒聖書講座
内容II「救いの確立」(熊谷邦男師 第3回目まで公開中)

(聖書講座は教育局HPから常時視聴できます。)

(青少年部・青年課)
▽静岡青年大会 (Zoom開催)
日時II5月8日(日)

講師II細田恒太郎師
(Zoomオンライン開催)

▽ビルド(月に一回テーマを設けて開催中。公式ラインQRコードから登録していただければ、毎月の案内が届きます)

ぜひ、ご活用ください。

(青少年部・中高生課)

▽スタッフ・トレーニング・キャンプ (Zoom開催)
開催日II5月15日(日)、22日(日)、29日(日)

(eラーニング)

4月18日から開始されている講座「非暴力コミュニケーションを学ぶ」(講師II久保木聡師・ナザレン鹿兒島教会)

牧師・宣教師・神学生・信徒伝道者には補助があります(申請が必要です)。

(申請窓口II野田慎師)

《JHA関係》
17日〜18日 北海道聖化大会

20日 ジョン・ウェズレーに学ぶ会(大阪)

■聖言神学院
▽教会実習が行われています。派遣教会は次の通りです。受け入れ

教会に感謝いたします。

林真光兄 シオン・キリスト教団
蒲田教会

森徳子姉 インマヌエル深川教会
▽17日は73回目の創立記念日です。

創立記念日感謝献金にお加わりいただければ感謝です。

▽春の教師会 12日(木)を予定しています。

▽今月の学院祈り会は2日(月)に行いました。

■出版事業部
▽折りのネットワーク2022の準備が進んでいます。今年も業務の省略化などのため、昨年と同数を無料配布いたします。各教会

で積極的にご利用ください。

▽年会等において案内がされました。

消息報告



た「教会福音讃美歌奏楽音源USBメモリ」が発売されます。教団内は会員特別価格での提供となります。別送の案内をご覧ください。

▼長らく勸士としてご奉仕なされた鮫島建兄(浜松教会員)は、4月8日、天に召されました。82歳でした。「ぬりえ紙芝居」のためにも全国を巡りご尽力くださいました。ご遺族と教会に主の慰めをお祈りいたします。

▼引退された徳田文彦先生、由紀子先生の連絡先は次の通りです。
〒971-0021 大分県中津市沖代町2-4-1
090-3416-2261

▼引退された中尾道程先生、悦子先生の連絡先は次の通りです。
〒639-0201 奈良県北葛城郡上牧町片岡台3-1 西大和片岡台団地 6号棟404号室

▼年会会場に出席のかわなかつた牧師方の教職按手式が次の日程で行われました。
4月18日(月) 北九州教区会にて
小川伴子師(別府)
國重由紀子師(福岡)

阪下崇子師(佐賀)
4月19日(火) 近畿教区会にて
葛田真理子師(堺)
戸谷富士子師(枚方)
渡邊そのえ師(岡山)

教報PDFパスワードII7653

新生宣教団 定価 一部110円(税込)
郵便振替 001107133609

発行人 岩上祝仁 編集者 寺村秀嗣
発行所 東京都千代田区神田駿河台1-

印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井七〇
OCCビル イムマヌエル綜合伝道団本部

発行所 東京都千代田区神田駿河台1-

発行所 東京都千代田区神田駿河台1-